

旭川市における 地域包括ケアシステム構築への取組

医療法人 旭川神経内科クリニック
院長 橋本 和季

「キュアからケアへ」最近、超高齢社会が目前に迫って盛んに言われているフレーズである。これは私にとって初めて聞くものではなかった。実は1990年代半ばに筋ジス4班（筋ジストロフィーの療養と看護に関する臨床的、社会学的研究）の発表で衝撃を持って聞いたのが最初である。これは筋ジスにとどまらず、神経難病全般について当てはまることであり神経内科医として患者のQOLをいかに上げるかということを念頭に対応してきた。開業して神経難病の在宅を中心に行うようになって一層その思いを強くした。

折しも、多死社会への対応として国の政策により在宅医療への誘導があり、在宅支援診療所、強化型支援診療所といった制度が整えられ、地域包括ケアシステムという概念も登場してきた。そして、団塊の世代が後期高齢者になる2025年までにこの地域包括ケアシステムを構築するべく各地域で取組がなされているわけである。高齢化率は地域で異なっており、利用できる社会資本も異なっているので、そういうことを把握した上でどうすべきかを考えていかなければいけない。

旭川では2025年に後期高齢者が増え75～79歳が人口ピラミッドのピークになるのだが、50～54歳にも山があり（いわゆる団塊ジュニア世代）何とか労働人口は保たれている。ところが2040年になると65～69歳がピークとなり若年に向かって完全に逆三角形となることが予想されている。したがって、介護は誰がするのかということも含めて2025年を目標に作ったシステムが15年後には役に立たない…ということも想定されるわけである。さらに、旭川市内においても高齢化の著しい地域とそうでない地域が混在しているので、同じ方法では上手くいかないことも予想される。

在宅医療に目を向けると、開業医の平均年齢の高齢化が進み、平均年齢が65歳に迫ろうとしており、24時間365日カバーするというのは、やり方を考えなければ難しい状況である。また、旭川では有料老人ホーム、グループホームが多く、高齢単身者の増加に伴い、施設での看取りが増えるとともに、施設からの救急搬送も増加している状況にある。

このように問題が山積みの中どう取り組んでいくのか？ 問題を俯瞰して広い視野で考えていく必要がある。地域ごとに選択と集中が可能なのだろうか？ これは医療の範疇を超えて街作りをいかにするかということにつながっていく問題である。市と

してどういう街作りをしていくのかというビジョンを持った上で対応していかなければならない。

医師会と行政が両輪となってシステムを構築することが重要と言われているのは、そういう点を含めてのことと思われる。先進的な取組をしているところを調べてみると、地域包括ケアシステムの構築に向けて、それを事業化して予算の手当をちゃんとしているということが分かる。旭川においても、昨年行政側（保健所+介護高齢課（今年度から長寿課に組織変更））との話し合いももたれるようになった。「地域包括ケアシステムの構築」ということを事業化して予算付けするかということは、行政側の腕の見せ所であり、期待するところである。そうでなければ両輪ではなく一輪車での運転になってしまう恐れがある。

地域包括ケアシステムは、いかにネットワークを作り、広げていくかということが重要である。病院、診療所、訪問看護師、介護、施設などをどうやって連携していくか？ 将来的にも使えるようなネットワーク作りを考える必要がある。それにはやはりICTの利用が強力なツールになると思われる。旭川市内の公的病院と病院、診療所はたいせつ安心i医療ネットにつながっている。在宅医療では、現在リバータウンクリニックの鈴木先生を中心にバイタルリンクを使ったネットワークが広がりを見せており、主治医と連携医、訪問看護師、薬剤師、ケアマネ、施設看護師などをつなげる方法として非常に有用であることが確認されており、バックアップ体制や緩和ケアチームとの協力など活用範囲を広げることで一段と有効性が上がることが期待できる。このようなネットワークをいかに公的なものとして運用していくかが課題である。

もう一つ、そしてこれが一番重要だと思われるのは、患者（市民）の意識である。死に場所を含め、どのような死に方をするのか？ 終末期にどこまでの医療を要求するのか、これは病気になる前から考えておいてもらわなければならない。今後、社会保障費が逼迫することが予想され、健康保険制度を理解してもらった上でコンセンサスを得る必要がある。

最初から完璧なものは不可能である。たとえ完璧であっても時代とともに劣化する—これは万物共通の理である。柔軟にいかに早く修復・対応できるかがポイントのように思われる。宇宙の膨張とともに時は加速的に過ぎていく。とにかく歩を進めねば。